


「中期経営計画2026」 (エネルギー&ライフラインセグメント)

2024/4/17

 **住友重機械工業株式会社**
エネルギー&ライフラインセグメント長
小島 英嗣

INDEX

01

エネルギー&ライフライン セグメント概要

02

ありたい姿、目指すポートフォリオ

03

「中期経営計画2026」 (中計26)

01

エネルギー & ライフライン セグメント概要

01 セグメント概要

エネルギー&ライフライン セグメント概要

エネルギー・プラント
および関連機器

セグメント主要製品



CFB/BFBボイラ発電プラント



液化空気エネルギー貯蔵 (LAES)



蒸気タービン



攪拌槽/蒸留・抽出設備



食品・飲料製造設備

化学・食品・水処理各プラント
および関連機器



水処理設備

鉄鋼構造物
船舶・海洋構造物

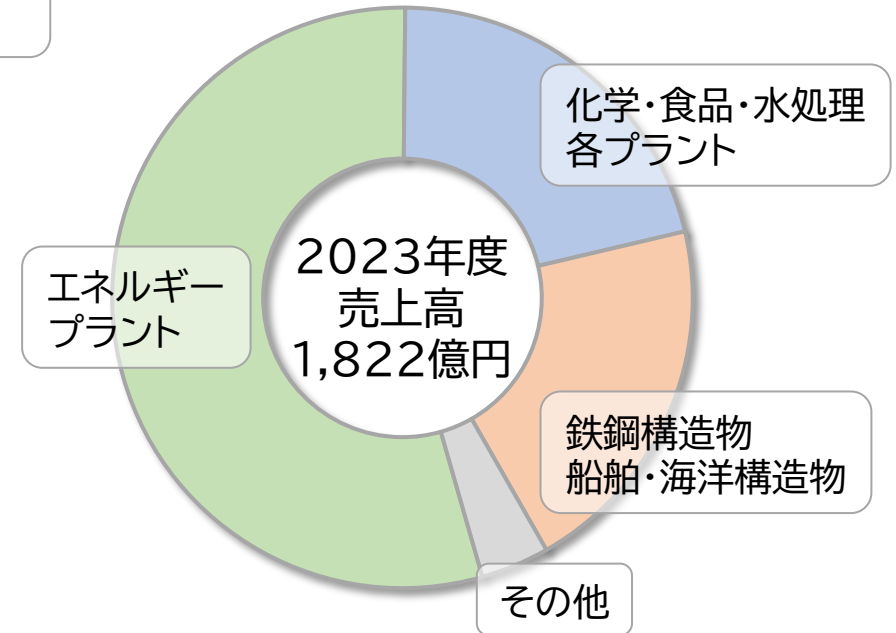


鉄鋼構造物



船舶・海洋構造物

事業領域別売上比率



その他



02

ありたい姿、目指すポートフォリオ

02

ありたい姿、目指すポートフォリオ

「脱炭素エネルギー」、「資源循環」領域でのソリューション・プロバイダーを目指す

外部環境変化への対応

事業環境(市場構造)の変化

CO₂削減要求の高まり
燃料転換促進による産業構造変化

あらたな事業機会への転換

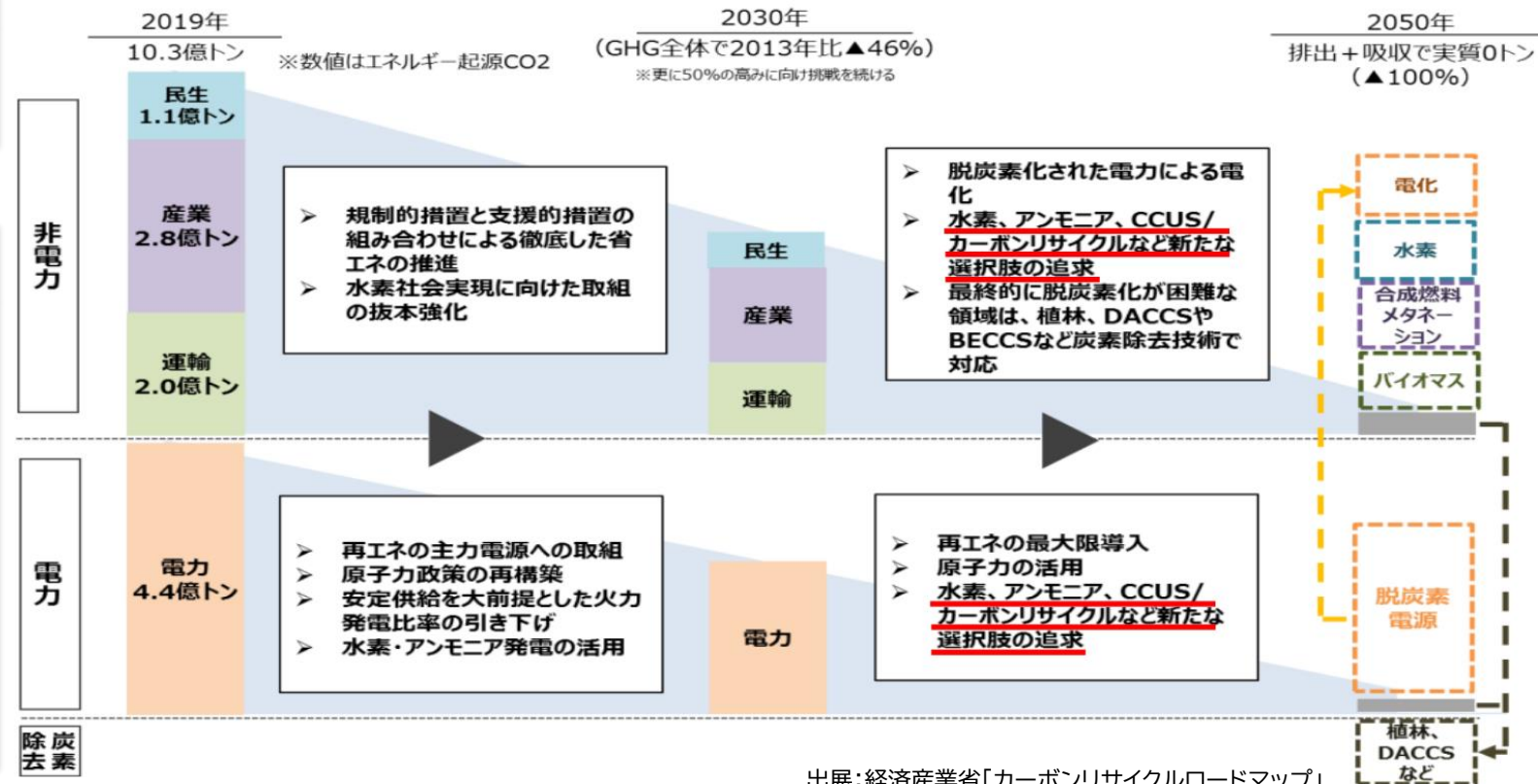
「脱炭素エネルギー」、「資源循環」を軸とした
事業転換とその強化拡大を目指す

《 主要課題 》

- ・CO₂排出分野でのカーボンリサイクル
(回収・再利用)技術の確立と事業化
- ・エネルギー貯蔵設備、洋上風力発電等の活用
による再生可能エネルギー促進事業の拡大

カーボンニュートラルに向けたカーボンリサイクルの役割

電力の脱炭素化、CO₂の再利用がカーボンニュートラルの重要なオプション

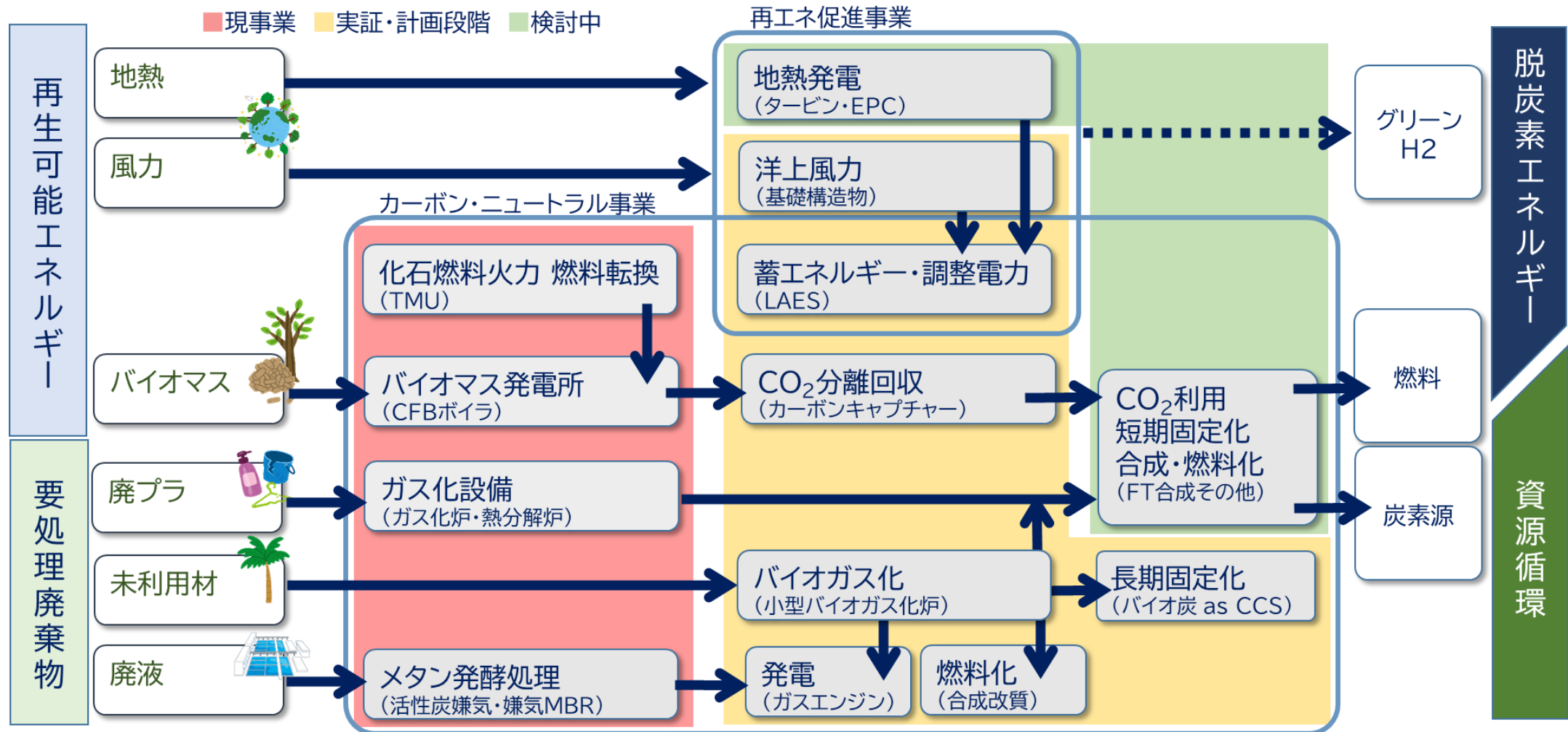


02

ありたい姿、目指すポートフォリオ

事業化戦略概要

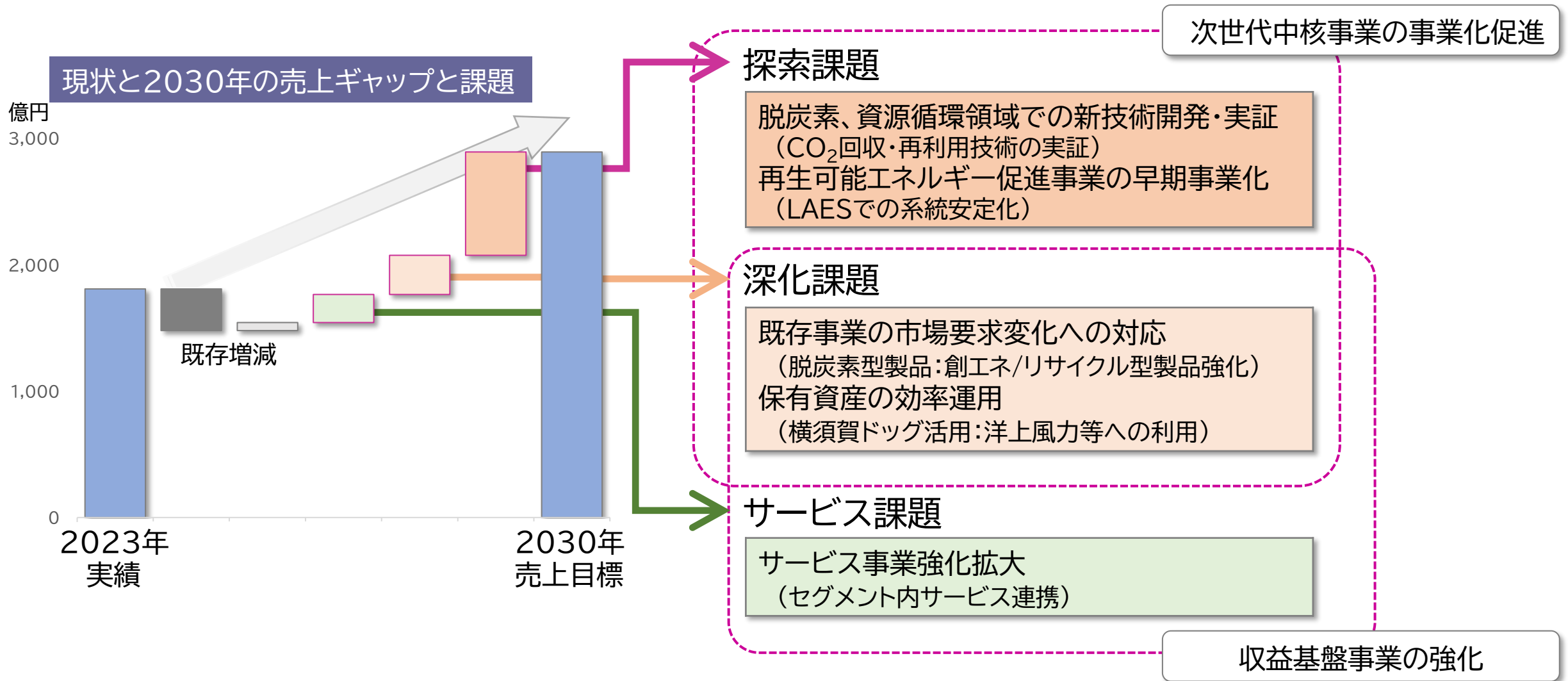
脱炭素エネルギー、資源循環領域での事業化方向性



02

ありたい姿、目指すポートフォリオ

2030年に向けた事業方向性と課題



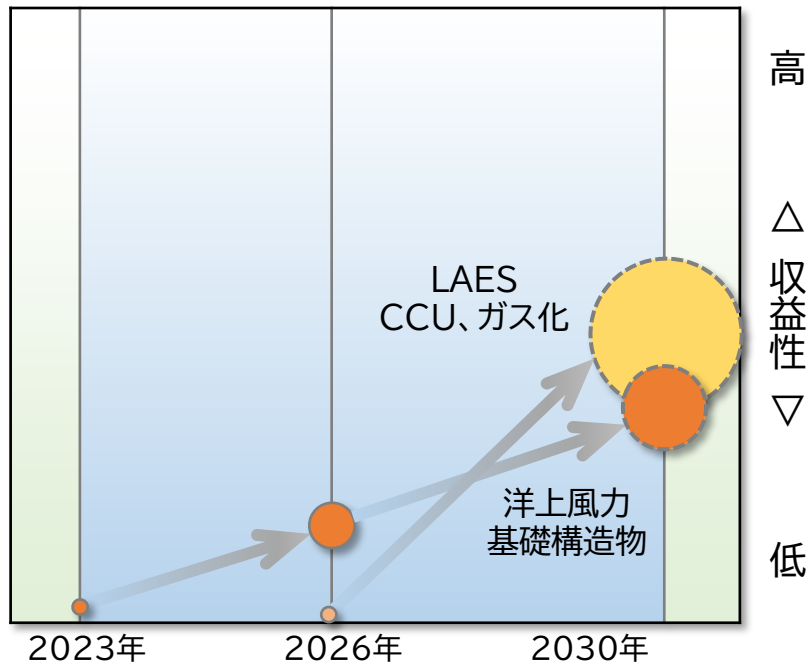
02

ありたい姿、目指すポートフォリオ

2030年に向けたセグメント事業像

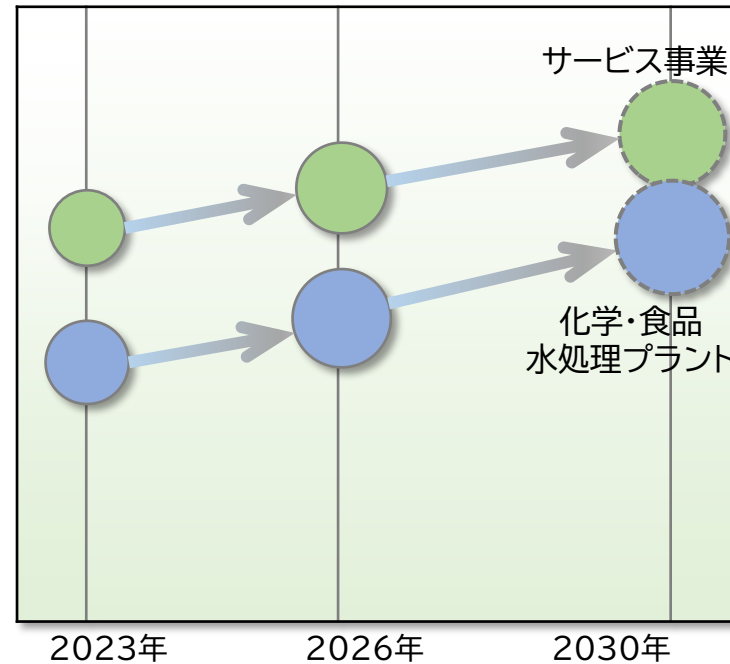
事業ポートフォリオ・イメージ

次世代中核事業



* 円の大きさは売上高イメージ

収益基盤事業



カーボンニュートラル社会実現への貢献

再生可能エネルギー促進への貢献

- ・ボイラ燃転、バイオマス専焼化
- ・洋上風力基礎構造物量産化
- ・液化空気貯蔵エネルギーによる系統安定化

CO₂回収・再利用技術の開発

- ・カーボンキャプチャー技術開発・実証
- ・CO₂再利用技術開発・実証

カーボンニュートラルへ繋げる新事業展開

- ・カーボンネガティブ技術事業化確立
- ・社会実装への寄与

03

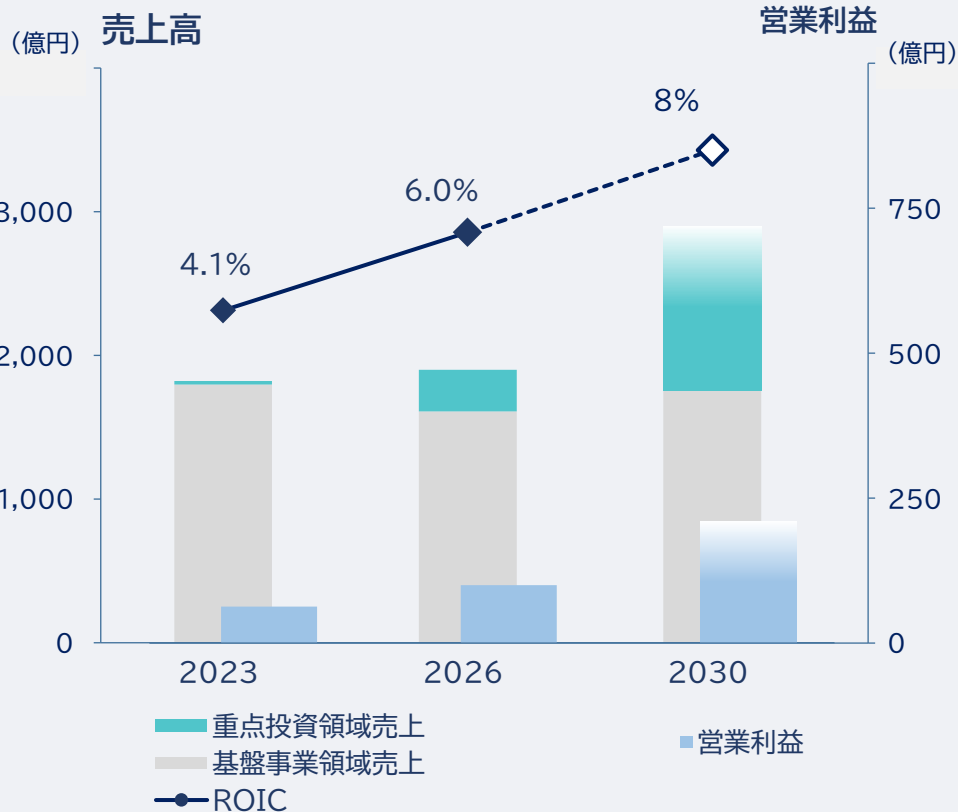
「中期経営計画2026」

03

「中期経営計画2026」 主要戦略課題

2030年
目指す姿(1)カーボンニュートラル事業 (2)再エネ促進事業 を軸とした
脱炭素エネルギー・資源循環領域のソリューションプロバイダー

事業計画



戦略の方向性

① 重点投資領域の伸長 【新規事業】

「環境・エネルギー」分野

(1)カーボンニュートラル事業

- ・バイオマス発電、バイオマスを原料とした持続可能な燃料(SAF等)製造
- ・CO2回収・再利用等カーボンネガティブ技術の開発

(2)再エネ促進事業

- ・液化空気エネルギー貯蔵設備による系統安定化
- ・洋上風力向け基礎構造物事業化～量産

② 基盤となる事業領域の収益強化 【既存事業】

サービス連携強化

- ・機能強化・提案メニューの拡充、セグメント内の連携推進

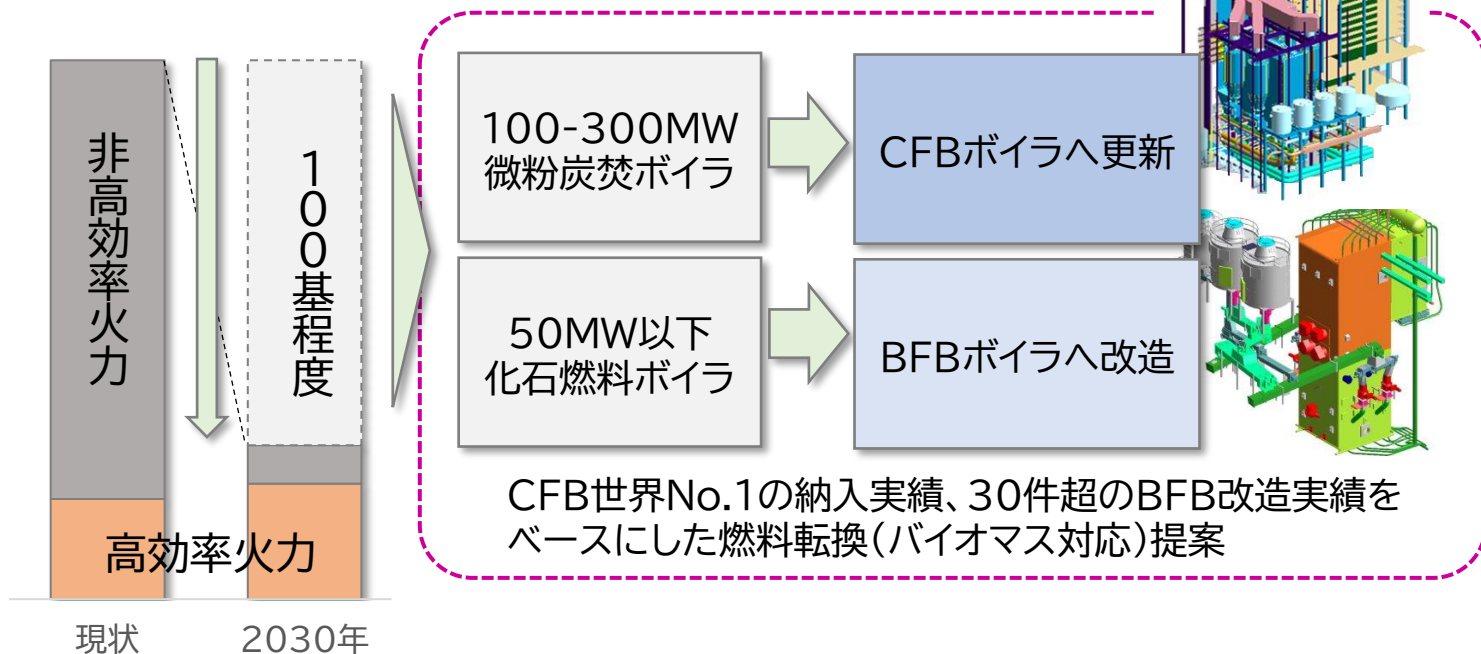
プロジェクト採算管理の徹底

ROIC改善ポイント: ◇サービス事業強化による利益拡大
◇脱炭素エネルギー・資源循環領域での
次世代中核事業の育成・事業化加速

TMU:Technology Modernization & Upgrades

燃料転換提案により化石燃料ボイラ保有顧客の脱炭素化を実現
世界No.1実績のバイオマスボイラ技術で最適提案を展開

フェーズアウトが進む国内非効率火力への脱炭素化提案



サービス連携

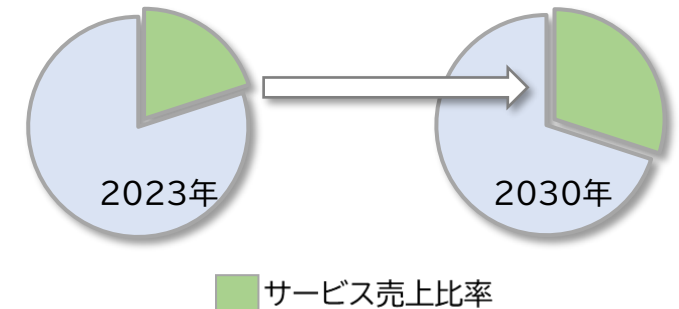
セグメント内サービス連携を推進

- 経営資源の重点配分(人員補強、拠点拡充)
- サービスメニュー拡大(高効率化提案等)
- サプライチェーン整備
- DX導入(プラント運用・予知保全管理システム等)

コンピタンス結合

シナジー創出

サービス事業 拡大・強化



03

「中期経営計画2026」 次世代中核事業の事業化促進

持続可能な燃料製造技術(ガス化・CCU・FT合成)

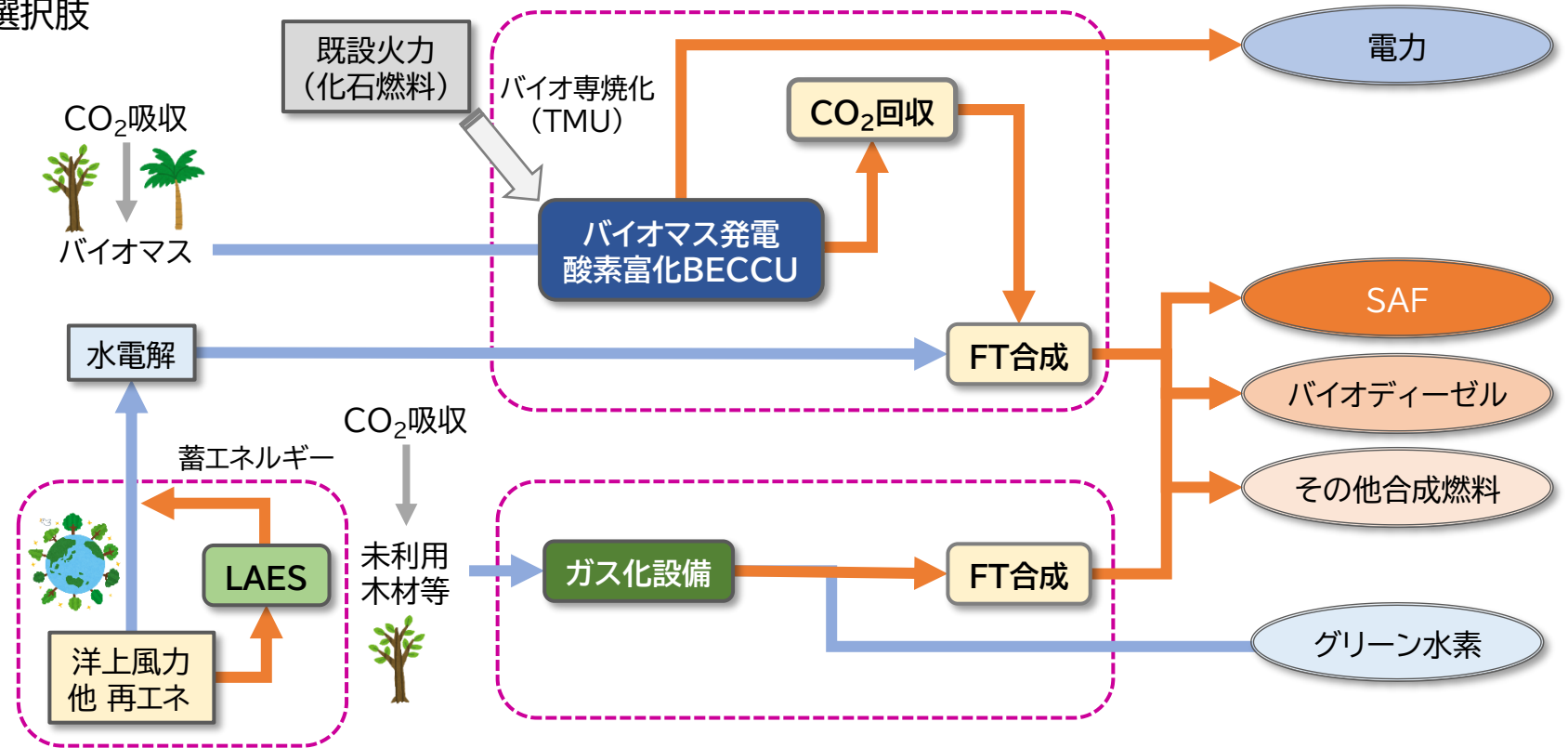
バイオマスのグリーンCO₂からの持続可能な燃料製造へ転換する技術の確立

カーボンニュートラルを実現する脱炭素技術の選択肢

燃焼技術から燃料製造技術への転換

バイオマスからのグリーン炭素をSAF等のグリーン燃料へとエネルギー転換するため「CO₂回収技術、ガス化技術、FT合成技術」を確立する

各技術の開発、各種実証運転を計画
社会実装・事業化の推進をはかる



LAES:液化空気エネルギー貯蔵システム(Liquid Air Energy Storage)

商用実証プラントの建設を開始

再生可能エネルギー主電源化を支える社会実装に向け新しいステップへの展開

液体空気の形で電力エネルギーを貯蔵し、必要な時に取り出す技術。

オフピーク時の電力や余剰電力を利用し圧縮・冷却して液化した空気をタンクに貯蔵。

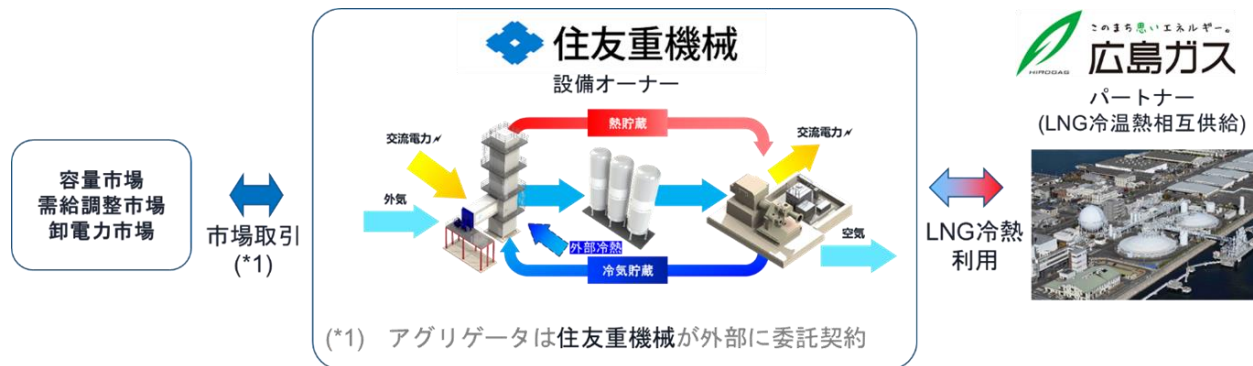
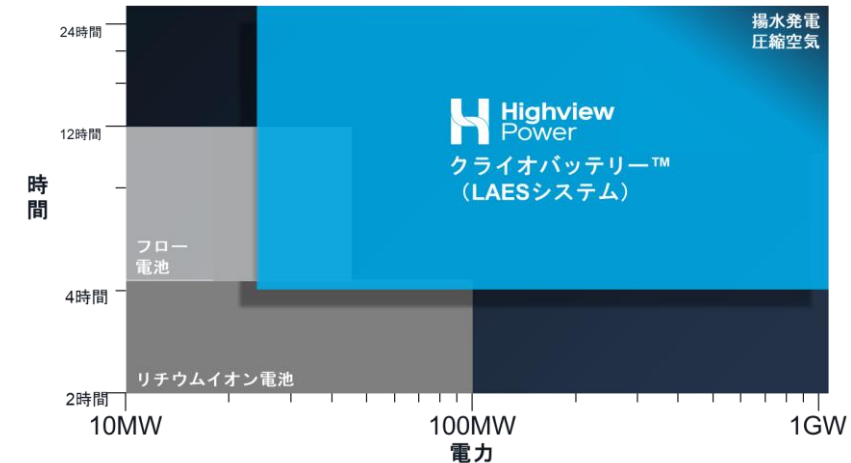
必要に応じて再気化させ、膨張エネルギーを利用してタービン発電機により電力を供給する。

広島ガス殿廿日市工場敷地内に「LAES商用実証プラント」を建設中。

同工場のLNG(液化天然ガス)の冷熱を空気液化の冷却プロセスに利用する。

2025年からの商用運転開始を計画。

容量市場、需給調整市場、卸電力市場への活用・事業化を推進。



03

「中期経営計画2026」 次世代中核事業の事業化促進

洋上風力発電設備 基礎構造物事業

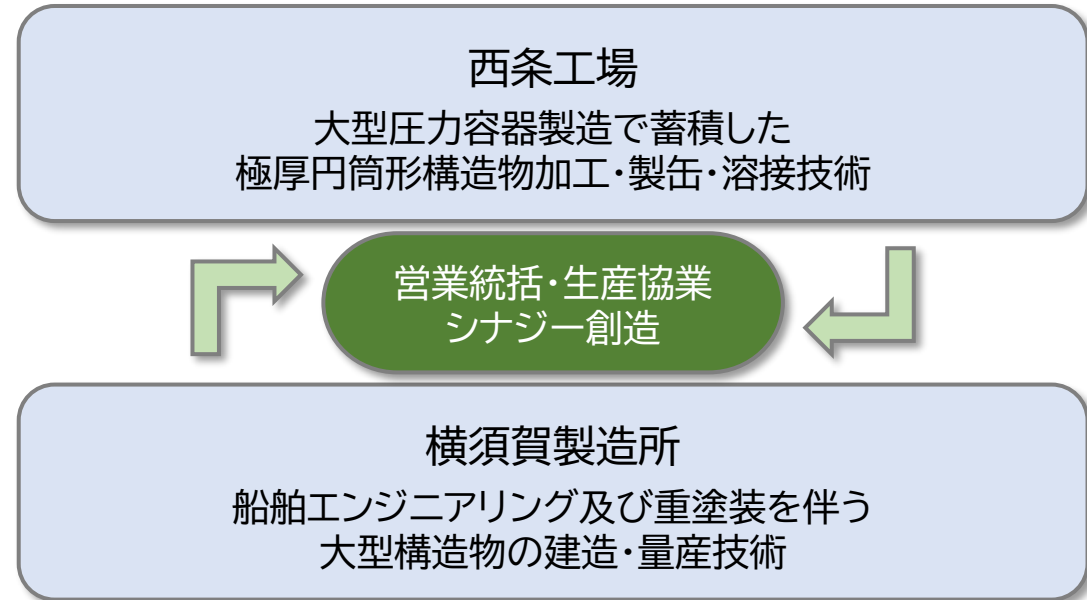
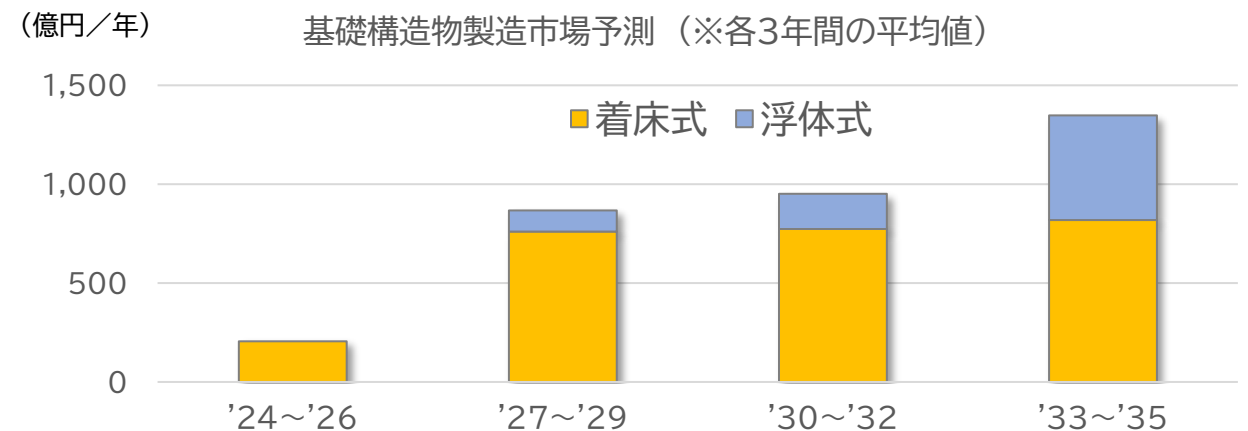
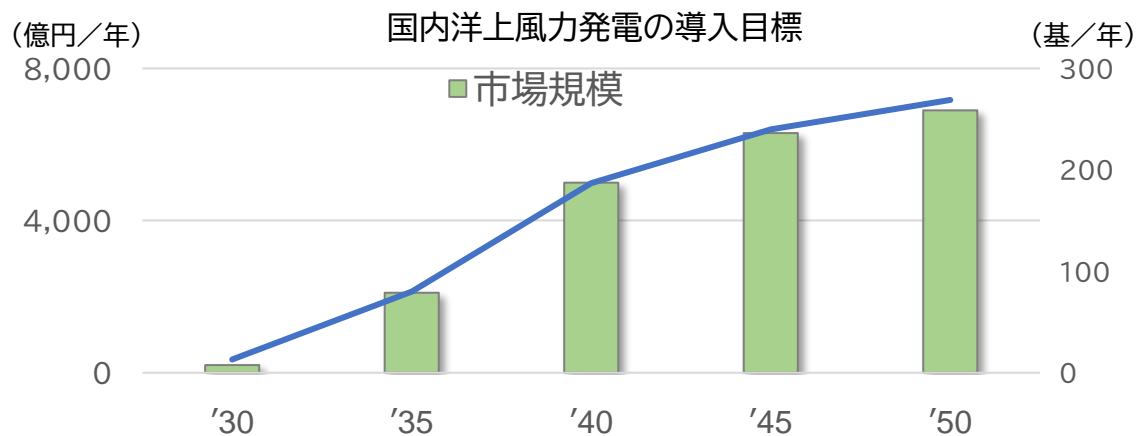
セグメント内コンピタンスの結合によりシナジー創出
再エネ促進事業を進めるべく組織発足し、事業化展開を推進

《強み》

- ・着床式／浮体式いずれの基礎構造物にも転用可能な保有技術を結合
- ・量産対応キャパシティ、および東日本唯一最大拠点としての立地メリット

《目標》

2026年からの着床式基礎構造物の量産開始
2029年からの浮体式基礎構造物の量産開始

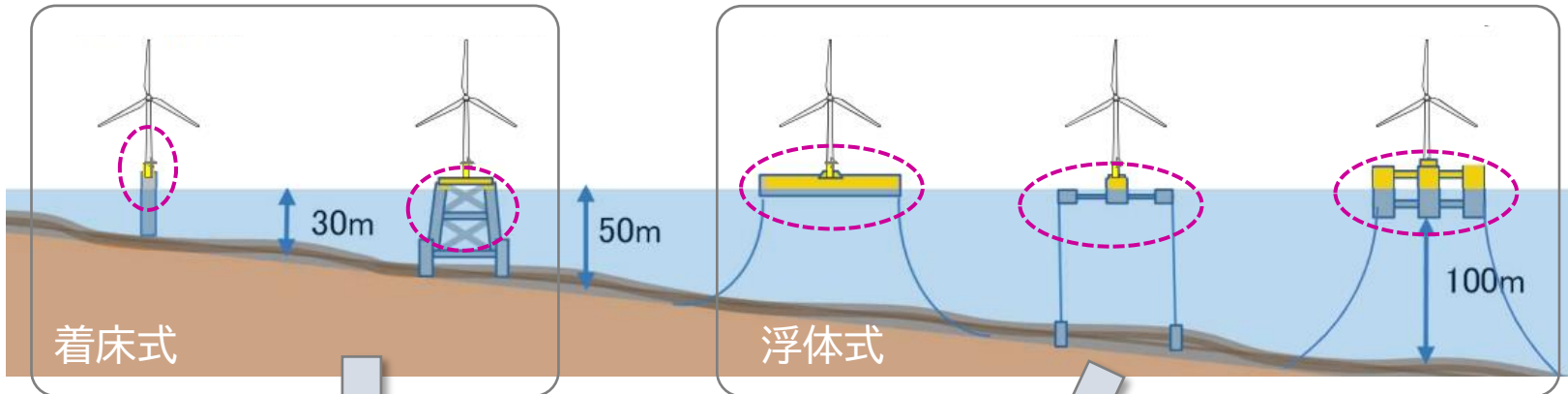


03

「中期経営計画2026」 次世代中核事業の事業化促進

洋上風力発電設備 基礎構造物事業 基礎構造物の概要

洋上風力発電設備の形式例



出典:国土交通省資料



西条工場



横須賀製造所

基礎構造物(住友重機械 製作)



海域特性等に応じて着床式、浮体式それぞれの方式が採用される

- いずれの方式にも対応可能な構造物生産技術
- 西条、横須賀両工場の協業・分業体制構築による量産対応

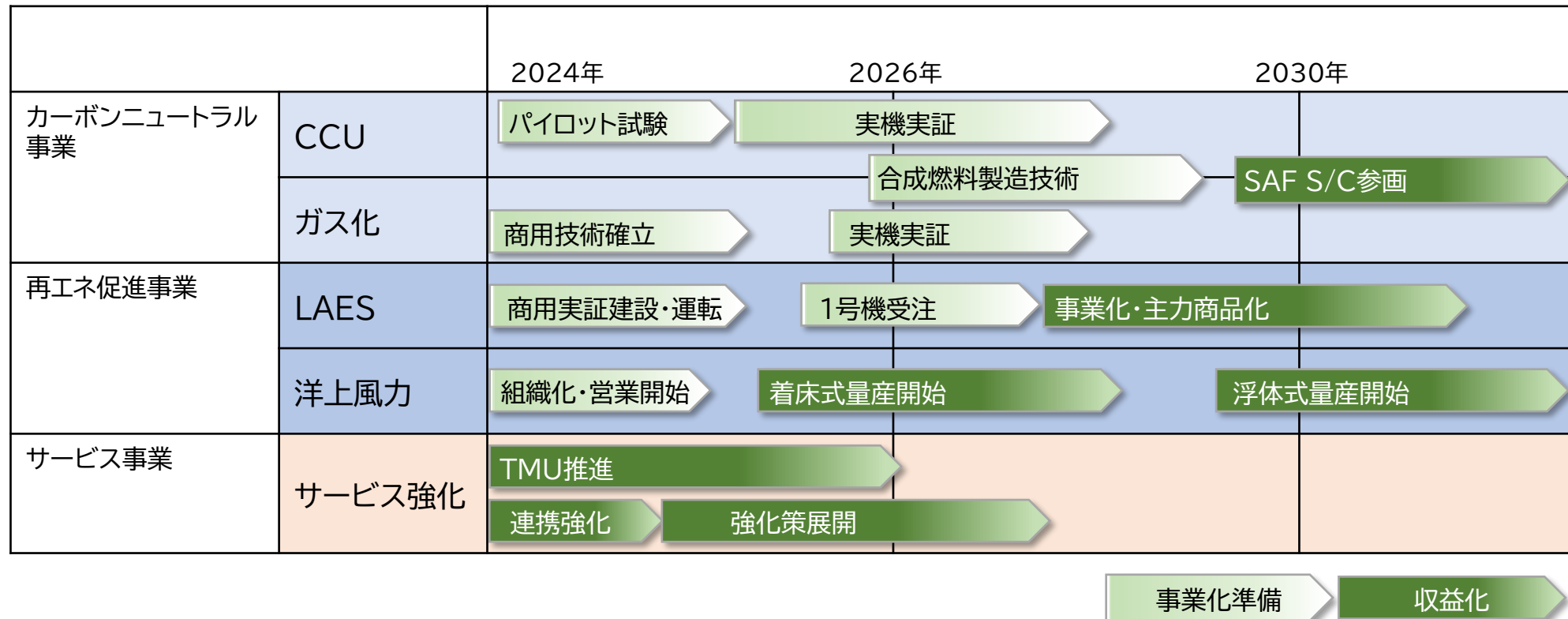
事業化促進

03

「中期経営計画2026」 2030年までの事業計画概要

セグメント主要課題のロードマップ

カーボンニュートラル事業、再エネ促進事業領域の主力事業化を目指し
各種開発・実証の推進、生産体制の強化をはかる





将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。